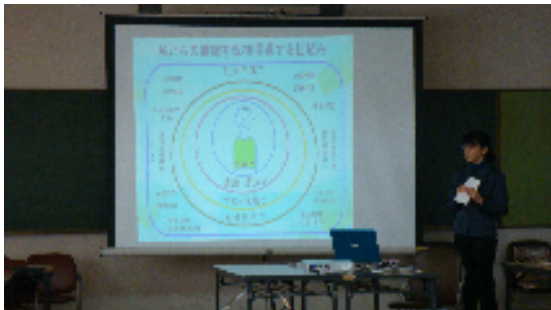


看護医療類型「看護医療学基礎」授業風景

『こども保健学』

1 日時	平成23年11月17日(木)
2 場所	本校 会議室
3 参加者	生徒26名、教師 4名
4 内容	今回は、姫路獨協大学より、森脇裕美子先生にお越しいただき、「こども保健学とは何か」について話を伺った。内容としては、①こどもの保健(小児保健)とは②子どもの保健を支援すること③子どもと大人の違い④子どもの健康を守る、などであった。
5 感想	話の導入においては、「保健」という言葉の定義から考えた。「健康を保つ」ということである。小児保健は子どものための環境を整えることが目的であるとわかった。普段、健康は自分で守るものだと考えているが、様々な法律や機関によって支えられているとわかった。また、お産を例に挙げて、誕生時における母体と胎児の関係についても考えた。誕生によって、子どもを取り巻く環境は激変するが、自ら育とうとする子どもは、健康の保持増進のため支援を受ける権利を持つということを知った。
6 写真	



健康を保持増進する仕組みとは



支援のプロセスとは



反射運動とは



睡眠パターンの変化とは

